

平成29年度第1回学校評議員会だより

日 時：平成29年7月3日（月）13：30～15：00

出席者：学校評議員 伊藤 嘉彦 様（真駒内東町町内会長）
菊地 ひとみ 様（札幌肢体不自由福祉会施設長）
戸倉 聡 様（日之出歯科真駒内診療所）
堀内 紀久美 様（NPO法人MINNAの会理事長）
佐々木 規文 様（本校PTA会長 *本日欠席）
学 校 宮崎校長、佐橋副校長、柏木教頭、英事務長
安達主幹教諭、（小柳、鳥飼、渡辺晃）



第1回目の学校評議員会では、4名の出席をいただき、授業参観、学校経営方針の説明、防災や危機管理体制等についてご評議いただきました。

◎ 授業参観

中学部(音楽)、高等部(委員会活動)の授業を参観していただきました。参観後、次のご質問とご意見をいただきました。

Q：(評議員)音楽の授業では、学部一斉に行っていたのはなぜか？

A：授業では生徒のねらいに応じたグループ分けが多いが、音楽では題材や内容に合わせたグループを編成している。生演奏などの鑑賞では合同にしている。

意見：授業グループ編成の根拠が曖昧。根拠を持ったグループ編成をした方が良いのではないか。

◎ 学校経営方針の説明（校長）

校長より平成29年度の学校経営方針の重点及び取組について説明しました。（要点）

「協働する組織の基盤を創る～プロチーム真駒内を創る～」(重点目標)

教職員としての職務を遂行するプロとして、協働性を高めプロチームを創る。経営の重点には、インシデント調査チームの発足、食形態を広げるための軟飯の提供、同僚性の発揮、個々のミッションに基づいた協働とスピード感、福祉避難所について等の取組みや課題が説明された。

更に、校長から次の質問をしました。

Q：災害時、本校は福祉避難所と指定避難所の二つの役割を担う。バリアフリーの本校では、高齢の方などには有効に使っていただけたらと思う。夜間、職員が不在だと玄関が開かない、備蓄がないなどの条件もあるが、広報として、どんな情報が必要なのかご意見を伺いたい。

A：(町内会会長)住民としても知る機会がない。市の方で積極的に広報して欲しい。災害時に真駒内養護を使用できる条件のお知らせも重要である。

学校評議員からは、本校の取り組みに対してご質問やご意見をいただきました。

Q：(評議員)当該学部以外の児童生徒を休業日にした研修について、保護者のニーズをふまえると(福祉事業所では)なかなか休みとすることはできない。休みにした分の振り替えはあるのか？

【校長より】・冬季休業から振り替えているが、曜日と計算の関係で時数カウント上の変化はない。実際には登校日は減るが、休業日を設定して全校で研究をする必要があると考えている。

Q：インシデント調査チーム会議後及び一般的な事故報告の処理はどうなっているのか？

A：インシデント調査チームの記録については、職員打ち合わせで防止策を中心に報告し、校内掲示板で公開している。事故報告書については、打ち合わせで報告後、ファイルにとじて職員は閲覧できるようになっている。

意見：(評議員)インシデント調査について、当事者だけの反省に終わらないような情報共有の体制をつくるのが大事。また、インシデント報告をした個人が責められることがないように配慮する必要がある。

【副校長より】・最も重要なのは再発防止であり、個人の問題が内容ではない。厳しい追及による報告のしずらさや、柔軟すぎる運用による気持ちの緩みに、十分気をつけて進めていきたい。



地域とのつながりについて、ご意見を伺いました。

意見・(評議員)町内の盆踊りや店舗での『作業講習』など成果はある。地域に出て行くことが大切であり、地域での活動の幅を広げていくとよい。みなみの杜高等支援学校や町内会と一緒に何かをする活動もよいのではないかな。



【校長より】・今年、来年は大規模改造工事があり、工事車両も通ることになる。その際は、お知らせ等を町内にしていきたい。

◎校長挨拶

今年度は、小中高の体育行事をすべて分離して単独開催とした。それぞれの学部に合わせた取組みとなり、児童生徒一人一人の目的がはっきりしたことで、保護者からも評価をいただいている。